

(案)

『銚子市地域福祉計画・地域福祉活動計画』の進捗状況について(令和7年度分)

令和5～9年度の5年間を計画期間として策定した『銚子市地域福祉計画・地域福祉活動計画』に掲載された事業の進捗状況を点検・評価しました。

【点検・評価の方法】

銚子市地域福祉計画掲載157事業と、地域福祉活動計画掲載33事業について、事業担当課において、令和7年度 of 取組状況、今後の課題等を点検・評価しました。
(一部、計画作成所管課(社会福祉課)において、調整したものがあります。)

評価基準は、次のとおりです。

評 価	基 準
A	計画どおりに施策・事業が実施できたと思われるもの、または目的を達成し完了したもの
B	施策・事業を実施したが、何らかの課題がある場合や、さらなる充実が必要と思われるもの
C	施策・事業を実施したが、進展が見られなかったと思われるもの
D	未実施、または目的の達成前に中止した施策・事業

【点検・評価結果】

<地域福祉計画>

157事業の進捗状況の点検・評価結果は、以下のとおりでした。

(複数の課・室で重複して実施している事業は、最も良い評価を採用しました。)

A B C D 評価	A	B	C	D
基本方針1「福祉のまちづくりの意識を高める」37事業	21	13	2	1
基本方針2「福祉の担い手を育て、支える」16事業	10	6	0	0
基本方針3「地域で共に生きる体制を整える」33事業	18	12	3	0
基本方針4「安全・安心な暮らしを守る」49事業	31	15	1	2
基本方針5「暮らしやすい生活環境をつくる」22事業	9	13	0	0
計画全体157事業	89事業 (56.7%)	59事業 (37.6%)	6事業 (3.8%)	3事業 (1.9%)

○点数換算（A＝5点 B＝3点 C＝1点 D＝0点）

点数換算（点）		100点満点換算
基本方針1	146／185	78.9／100
基本方針2	68／80	85.0／100
基本方針3	129／165	78.1／100
基本方針4	201／245	82.0／100
基本方針5	84／110	76.3／100
計画全体	628点／785点	80.0点／100点

令和7年度の取組状況は、A B C D評価におけるA評価が全157事業中89事業、全体に占める割合が6割程度で、概ね計画どおり進んでいます。B評価は59事業、C評価は6事業、D評価は3事業となっており、この評価結果は概ね昨年度と同様の傾向です。

なお、令和6年度にA評価であった事業でも、B評価やC評価となっている事業がいくつか見られます。これは、令和7年度に予定していた取組が予定どおり実施できなかった等の理由で、単年度ベースでの評価が下方修正のような形になっています。計画期間全体で捉えた場合には、事業の進捗が大きく停滞しているケースは少ないと考えています。

地域福祉計画は中間年度が過ぎ、次期計画に向けた検討の時期が近づいてきました。令和8年度は、次期計画を見据えた事業の進捗状況の点検・評価を進めていきます。

<地域福祉活動計画>

33事業の進捗状況の点検・評価結果は、以下のとおりでした。

A B C D評価	A	B	C	D
基本方針1「福祉のまちづくりの意識を高める」13事業	12	0	0	1
基本方針2「福祉の担い手を育て、支える」2事業	1	1	0	0
基本方針3「地域で共に生きる体制を整える」9事業	6	3	0	0
基本方針4「安全・安心な暮らしを守る」9事業	5	3	1	0
基本方針5「暮らしやすい生活環境をつくる」0事業	0	0	0	0
計画全体33事業	24事業 (72.8%)	7事業 (21.2%)	1事業 (3.0%)	1事業 (3.0%)

○点数換算（A＝5点 B＝3点 C＝1点 D＝0点）

点数換算（点）		100点満点換算
基本方針1	60／65	92.3／100
基本方針2	8／10	80.0／100
基本方針3	39／45	86.6／100
基本方針4	35／45	77.7／100
基本方針5	—	—
計画全体	142点／165点	86.0点／100点

令和7年度の実施状況は令和6年度とほぼ同じです。A B C D評価におけるA評価が全33事業中24事業、全体に占める割合が72.8%、B評価は7事業で、概ね計画どおりに進んでいると思われます。令和8年度も現状は維持しながらも取組の更なる充実を図ります。

計画上位置づけられているものの、「主な取組なし」となっている項目は、令和6年度に引き続き同様の状況でした。こうした項目の位置づけは、次期計画に向けて取扱いを検討していきます。

【地域福祉推進協議会委員からの意見】

今回委員からは、特に地域のつながりの維持が課題であり、重要であるといった意見を多くいただいたため、ここではこうした意見をまとめて記載しました。今後は、委員からの意見を踏まえ、次期計画改定に向けた検討を進めていくこととします。

<計画全体に関すること>

項目	意見の内容
全体 信田委員	独居の場合、周囲が気付けないこともあるため、地域のコミュニティを充実させることが必要である。また、防災関係の取組では少子高齢化が進んでいることで、維持できなくなる取組が増えていると感じる。それらの取組を次世代につなぐ努力が必要である。
全体 柏熊委員	昔のような密接なコミュニティが重要。災害時の被害も地域が密接になることで少なくなるのではないかと。また、市民の方々に福祉ボランティアに関する認識をいかに深めていただくかが課題。ボランティアに参加している方々の高齢化、後継者不足も課題である。
全体 高根委員	銚子シニアクラブでは、動ける方やクラブをまとめる方がいなくなってきたこともあり、この3年間で会員数が多く減少している。新型コロナウイルスが流行したことで、以前のような地域間の交流が少なくなったように思う。
全体 岩瀬委員	相談歴がなく、周囲の方々や市役所、圏域の包括支援センターにも生活実態が分からない方が亡くなった際、亡くなったときのままで家が放置されてしまう事例も出てきており、地域でのつながりが重要になってくると思う。
全体 実川委員	今年、地域の祭りが中止になり、役員の高齢化を感じている。一方で、銚子みなとまつりでの子ども神輿の数が増えたり、地域で盆踊り大会が開かれたりといった取組も行われている。こうした背景には、取組のリーダーが若い世代に交代して、方針が変わったということがある。
全体 五十嵐委員	野尻町では、モデル事業で地域間づくりや地域の方々の居場所づくりの取組を行っているが、高齢化が進んでいる。地域の活動も高齢化により難しくなっているように思う。また、高齢化と人口減少に伴う町内会の組織率の低下や役員のなり手不足が深刻になっていると思う。

<個別事業に関すること>

特になし